

「その矢は俺が射た矢だ。我こそは、陸奥の住人鳥の峯の矢三郎なり。尋常に勝負、勝負。」
と言って二人は、決闘を始めたのだ。

くんずほぐれず、追いつ追われつ、野を越え山を越え、川を渡って、七日七夜を戦い通し、二人とも、刀傷でぼろぼろになりながら死闘を続けて、真渡まで来たんだ。

景正は、最後の力を振り絞って、とうとう鳥の峯の矢三郎を討ち取ったんだ。

景正もまた刀傷がもとで力尽きてしまったんだ。

そこで、村人は、真渡の御霊神社に鎌倉権五郎景正を祀ったので、

別名五郎神社とも言うようになったのだ。

また、鳥の峯の矢三郎は、荷渡神社に祀られたんだ。

鬼のように強い矢三郎を祀ったので鬼渡神社といわれるようになったんだ。